

	シーズ名	同種造血幹細胞移植における合併症対策
	氏名・所属・役職	医学研究科 血液腫瘍制御学・講師・中根 孝彦
<p>＜概要＞</p> <p>これまで主として、同種造血幹細胞移植に関連した研究を行ってきた。</p> <p>最近の研究内容は以下のとおりである。同種造血幹細胞移植における移植後に影響する重要な合併症として移植片対宿主病予防（GVHD）がある。標準的な HLA 一致ドナーからの移植における慢性 GVHD を減らす試みとしての GVHD 予防に関する検討の他、標準的でない HLA 不一致骨髄バンクドナーからの移植における GVHD 予防法の検討を現在行っている。標準ドナーからの移植で GVHD を減らす試みは移植後の改善につながるものであり、標準的なドナーがいない患者に対し HLA 不一致ドナーから安定した移植が行えれば、根治的治療として同種移植を受けられる患者の増加が期待できる。</p> <p><u>*同種造血幹細胞移植における移植片対宿主病予防（GVHD）に関する研究</u></p> <p>血液疾患に対する根治的治療として同種造血幹細胞移植は本邦でも年間 3000 例以上施行されるようになってきている。同種造血幹細胞移植での治療関連死亡は 20-30%程度と未だ高く、GVHD はその主要な原因の一つである。標準的 GVHD 予防法としてカルシニューリン阻害剤＋短期メソトレキセートが用いられているが、GVHD 発症予防を改善することで、治療関連死亡の軽減を通じ、移植後の改善をもたらすことが期待できる。こうした背景を元に以下の研究を遂行中である。</p> <p>①本邦におけるHLA不一致骨髄バンクドナーからの同種造血幹細胞移植におけるBortezomibを用いたGVHD予防法の安全性の検討（単施設第I相臨床試験）</p> <p>内容：骨髄バンクドナーからの造血幹細胞移植では一般にヒト白血球抗原（HLA）一致ドナーからの移植を考慮する。HLA 不一致バンクドナーからの移植において、既存の GVHD 予防に Bortezomib（多発性骨髄腫に対する治療薬）を加えた予防法の安全性と有効性の検討を目的とし本研究を計画した。この GVHD 予防の有効性が明らかになれば、ドナー対象の増加が見込め、ドナーが見つからず移植できない患者にとり有用な選択肢となる可能性が期待できる。</p> <p>②HLA 一致血縁又は骨髄バンクドナーからの同種造血幹細胞移植における移植後大量シクロフォスファミド及びタクロリムスを用いた GVHD 予防法の安全性と有効性に対する臨床第 II 相試験（単施設研究）</p> <p>内容：最も一般的なドナーからの移植に対するGVHD予防として、カルシニューリン阻害剤であるタクロリムスと大量シクロフォスファミドを用いた臨床研究である。この方法を用いることで低コストで通常のGVHD予防法よりも慢性GVHDの発症頻度が低くなる可能性が期待でき、移植後の改善に寄与する可能性がある。</p> <p>＜アピールポイント＞</p> <p>同種造血幹細胞移植における合併症死亡の割合は依然高く、課題は未だ多く残されている。当科での同種移植数は近年 40 例/年程度を維持できるようになってきており、多施設共同、単施設研究共に症例蓄積がある程度期待できる。臍帯血移植、血縁 HLA 一致移植、血縁 HLA 半合致移植、非血縁骨髄・末梢血幹細胞移植など幅広い移植源から移植を施行しており同種移植に関する様々な研究を施行できる可能性がある。</p> <p>＜利用・用途・応用分野＞</p> <p>疫学的な研究、無菌管理（無菌室、食事など）に関する研究、移植後栄養状態維持やリハビリテーションに関する研究、精神状態に関する研究など同種移植管理の改善に向けては多角的な研究を行う余地があるものと思われる。</p> <p>＜関連する知的財産権＞特になし</p> <p>＜関連するURL＞http://www.med.osaka-cu.ac.jp/labmed/</p> <p>＜他分野に求めるニーズ＞なし</p>		
キーワード	同種造血幹細胞移植、治療関連死亡、移植片対宿主病	